



平成25年度 果樹情報 第5号

(平成25年5月17日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (5月前半：果樹研究所)

5月1～3半旬の平均気温は、1半旬が11.1℃で平年より3.9℃低く、2半旬が13.5℃で平年より2.2℃低く、3半旬が15.1℃で平年より0.3℃低い状況でした。この期間の降水量は10.5mmで平年の25%でした。

2 土壌の水分状況 (5月15日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmが2.5、深さ40cmが2.0、深さ60cmが2.1で、深さ20cmはやや乾燥状態ですが、深さ40cmと60cmは適湿条件の範囲です。

3 発育状況 (果樹研究所)

(1) 各樹種の生育

- ア もも「あかつき」の開花始めは、平年より2日早く、満開は3日早い状況でした。
- イ なし「幸水」の開花始めは、平年より4日早く、満開は平年並みの状況でした。
- ウ りんご「ふじ」の開花始めは、平年より1日早く、満開は2日遅い状況でした。
- エ おうとう「佐藤錦」の開花始めは、平年より3日早く、満開は1日早い状況でした。
- オ ぶどう「巨峰」の発芽は、平年より1日早く、展葉は1日遅い状況でした。

表1 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月18日	4月19日	4月28日	4月26日	4月25日	5月2日

注) 平年は1981～2010年の平均値。

表2 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月13日	4月15日	4月24日	4月18日	4月21日	4月29日
	ゆうぞら	4月14日	4月16日	4月24日	4月19日	4月21日	4月28日
なし	幸水	4月19日	4月23日	4月28日	4月27日	4月27日	5月1日
	豊水	4月15日	4月19日	4月25日	4月22日	4月24日	4月29日
りんご	つがる	4月25日	4月26日	5月1日	5月2日	5月1日	5月4日
	ふじ	4月26日	4月27日	5月1日	5月3日	5月1日	5月4日
おうとう	佐藤錦	4月16日	4月19日	4月25日	4月24日	4月25日	4月29日

注) 平年は1981～2010年 (オウトウは1994～2010年) の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成25年5月17日発表)より

今後の気温経過は、1週目 (5月18日～5月24日) は、東北日本海側で平年並または高い確率ともに40%、東北太平洋側で平年並の確率が50%、2週目 (5月25日～5月31日) は、東北日本海側で平年並または高い確率ともに40%、東北太平洋側で平年並の確立が40%となっています。

(2) もも

ア 発育予測

本年の「あかつき」の硬核期開始は、6月12日頃で平年より1日遅いと予測されます。また、収穫開始は平年より2日遅いと予測されます。

表3 ももの発育予測（5月15日現在）

品 種	硬核開始日			収穫開始日			収穫盛日		
	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	6月12日	6月11日	1日遅い	8月4日	8月2日	2日遅い	8月8日	8月6日	2日遅い

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1981年～2010年の平均。

(3) ぶどう

本年の「巨峰」の開花始めは、今後の気温が平年並に推移した場合は6月10日、平年より2℃高い場合は6月7日、平年より2℃低い場合は6月15日と予測されます。

また、満開は、今後の気温が平年並に推移した場合は6月12日と予測されます。

表4 ぶどうの開花予測日（5月15日現在）

品 種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
	昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
巨 峰	6月9日	6月6日	6月10日	6月7日	6月15日

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1988～2010年の平均。

表5 ぶどうの満開予測日（5月15日現在）

品 種	満 開		今後の気温経過と満開予測日		
	昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
巨 峰	6月15日	6月10日	6月12日	6月9日	6月18日

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1988～2010年の平均。

4 栽培上の留意点

(1) 凍霜害対策

果樹類の多くは幼果期を迎えています。引き続き気象予報に注意し、降霜の恐れがある場合は防霜対策を実施しましょう。ぶどうやカキは展葉期に凍霜害を受けると花器だけでなく新梢も障害を受けるので十分注意してください。

作物別凍霜害等気象災害防止対策

農業振興課・農林地再生対策室ホームページに掲載していますので、御活用ください。

URL : http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/tousougai_taisaku_h250328.pdf

果樹の現在の生育ステージ

農業振興課・農林地再生対策室ホームページに、農業総合センター（本部、果樹研究所、会津地域研究所、農業短期大学校）の生育状況を掲載していますので、参考にしてください。

URL : http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#tokubetsuyouhou

(2) もも

この時期は新梢や果実の生育が旺盛な時期であるので、着果管理や土壌の水分管理等を徹底し、新梢および果実の初期生育を促進しましょう。

ア 予備摘果

開花期以降気温の低い日が多く、果実の初期肥大が緩慢でバラツキが目立っています。摘らいや摘花を実施しなかった場合や摘らい程度が弱かった場合は予備摘果を必ず実施しましょう。なお、品種により結実不良で着果量が少ない場合は、予備摘果は行わず仕上げ摘果から作業を実施しましょう。

イ 仕上げ摘果

果実肥大に差がつく満開後40日頃から実施します。なお、本年の硬核期開始は6月12日頃（果樹研究所）と予想されるので、仕上げ摘果はこの頃までを目安に実施しましょう。

摘果の程度は最終着果量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生状況を見ながら加減しましょう。

ウ 樹勢回復対策

早めの摘果により新梢の生育を促しましょう。また、現在、土壌は乾燥傾向にあるため、積極的に灌水を実施するなどにより土壌水分の確保に努めましょう。

エ 新梢管理

5月下旬から6月中旬は新梢の生育が最も盛んな時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠が混み合いやすくなります。樹冠内部や主枝、亜主枝の基部、側枝の基部などの徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施しましょう。なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定は行わないか最小限としてください。

(3) りんご

落花7～10日後になるとガク立ちし実止まりが確認できるので、実止まり確認後予備摘果を開始し、満開後30日以内に終了するよう努めましょう。

凍霜害を受けた園地では、結実状況や果形、肥大状況、サビ果の発生状況等を確認して摘果を実施するとともに、丁寧な摘果によりできるだけ形質の良い果実を確保するよう心がけましょう。着果数を十分確保することが困難な場合は、一部形質が劣る果実等も残し、樹勢のバランスを崩さないよう管理しましょう。

結実が良好な園地では、予備摘果の段階で長果枝や葉の少ない果そう及び肥大不良果そうの果実は積極的に全摘果を実施し、着果負荷の軽減を図りましょう。また、えき芽果の着生が多い園地では、早めに摘除しましょう。

予備摘果の実施に併せて、主枝や骨格枝の背面、枝の切り口等の不定芽から発生している新梢を芽かきしましょう。

(4) なし

予備摘果は満開後30日までに終了しましょう。凍霜害を受けた園地では、結実状況や果形、肥大状況、サビ果の発生状況等を確認して摘果を実施するとともに、丁寧な摘果によりできるだけ形質の良い果実を確保するよう心がけましょう。

また、「幸水」の仕上げ摘果は、肥大不良果の除去を中心に行い、満開後50日頃までに終了しましょう。

予備摘果と同時に芽かきも実施しましょう。主枝や亜主枝の背面枝はかき取り、不定芽新梢が混み合っている場所は芽かきで間引きし、2～3本に整理しましょう。予備枝は風による新梢折損の恐れがなくなってから先端新梢を一本に整理しましょう。

土壌が乾燥している場合は、樹勢低下やカルシウムの吸収不良による生理障害の発生が懸念されるため、かん水により土壌水分を十分に確保しましょう。

新梢伸長が不良で葉色が薄い場合には、早期摘果で着果量を制限するとともに、5月中を目安にチッ素成分を含む葉面散布用肥料を葉面散布するなどして樹勢の回復を図りましょう。

(5) ぶどう

混み合っている部位の新梢や伸びが強く花振るいの危険性が高い新梢、花穂を持たない弱い新梢は芽かきしましょう。

また、新梢が30～40cm程度伸びた頃から新梢誘引を行いましょう。ただし、「あづましずく」の新梢は硬く基部から折れやすいので、無理に誘引せず時期を遅らせて実施しましょう。新梢誘引、花穂の整理、花穂整形は適期を逃さないよう計画的に実施してください。

土壌の乾燥が続くと、新梢の初期生育が劣り、新梢伸長と花穂発育のバランスが崩れて花振るいや単為結果等の発生が心配されるので、必要に応じてかん水を実施し土壌水分の確保に努めましょう。

本年は凍霜害や低温の影響により、発芽の不揃い、芽枯れ、結果母枝の枯れ込み等の発生が確認されています。被害を受けた場合は、芽かきを遅らせ、新梢の発生状況を確認してから実施しましょう。被害が大きい場合は、芽かきを中止し、副芽や不定芽を活用し新梢の確保に努めましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんごうどんこ病

乾燥条件が続くと発生が多くなるおそれがあります。発生の多い園では、り病部位をせん除し適切に処分するとともに、落花2週間後にうどんこ病防除剤を散布しましょう。

イ ももせん孔細菌病

5月上旬の中通り北部における春型枝病斑の発生ほ場割合は、平年より高い状況でした（県病虫害防除所、平成25年5月10日付病虫害発生予察情報注意報第1号）。

今後、風雨等の条件によっては増加するおそれが高いため、春型枝病斑や葉・果実における発生には十分な注意が必要です。発病部位は伝染源となるため、見つけしだいせん除し適切に処分するとともに、5月中～下旬にせん孔細菌病防除剤を散布しましょう。

ウ もも灰星病

灰星病による花腐れから進展した枯れ枝を放置すると、他の核果類やももの成熟期における果実への伝染源となるので、見つけしだいせん除し適切に処分しましょう。

エ なし黒星病

5月上旬における果そう基部の発生ほ場割合は、浜通り南部は平年より高く、中通り北部は平年並の状況でした。また、中通り南部では発生が確認されておりません（県病虫害防除所、平成25年5月10日付病虫害防除情報）。

果そう基部病斑は見つけしだい除去し、適切に処分しましょう。また、薬剤防除を徹底しましょう。果そう基部病斑が多いほ場や、開花前後の薬剤防除間隔が空いた場合は、5月中旬の防除を徹底し、その後5月中の防除は約7日間隔で実施しましょう。

(2) 虫 害

ア 主要鱗翅目害虫

主要な鱗翅目害虫の発生時期は平年並に推移していると推測されます。

各害虫の越冬世代成虫の発生ピークは、モモハモグリガが4月28日、ナシヒメシクイが4月30日でした。

イ モモハモグリガ

現在、越冬世代成虫の発生は終息したと考えられます。ももハモグリガ第2世代幼虫の防除適期は6月1半旬～2半旬頃になると推定されるので、この時期にあわせて防除を行いましょう。

ウ ハマキムシ類

リンゴモンハマキ越冬世代成虫の発生盛期は5月5半旬頃と推定され、リンゴコカクモンハマキの発生もこれに準ずると考えられます。

リンゴモンハマキ第1世代幼虫の防除適期は6月2半旬～3半旬頃になると推定されるので、この時期にあわせて防除を行いましょう。なお、複合交信攪乱剤の設置が遅れているほ場では早急に設置しましょう。

エ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ越冬雌成虫の防除適期は5月5～6半旬頃になると見込まれるので、ふ化幼虫の分散に合わせて防除を行いましょう

また、クワシロカイガラムシの防除適期はウメシロカイガラムシより7～10日程度遅いため、防除時期を間違わないよう注意しましょう。

オ カメムシ類

越冬世代成虫による加害は幼果期から始まる場合があるので、特に山間、山沿いの果樹園

ではカメムシ類の飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

表6 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成25年5月15日現在）

今後の 気温予測	リンゴモンハマキ		モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	越冬世代 発生盛期	第1世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	5月24日	6月4日	6月4日	6月9日	6月18日	6月25日
平年並み	5月26日	6月8日	6月8日	6月14日	6月25日	7月5日
2℃低い	5月29日	6月14日	6月13日	6月20日	7月5日	7月15日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 リンゴモンハマキ：3月1日、モモハモグリガ：4月28日、ナシヒメシンクイ：4月30日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。